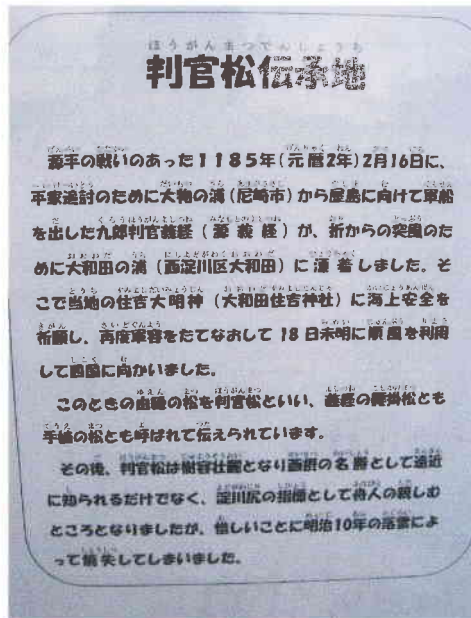


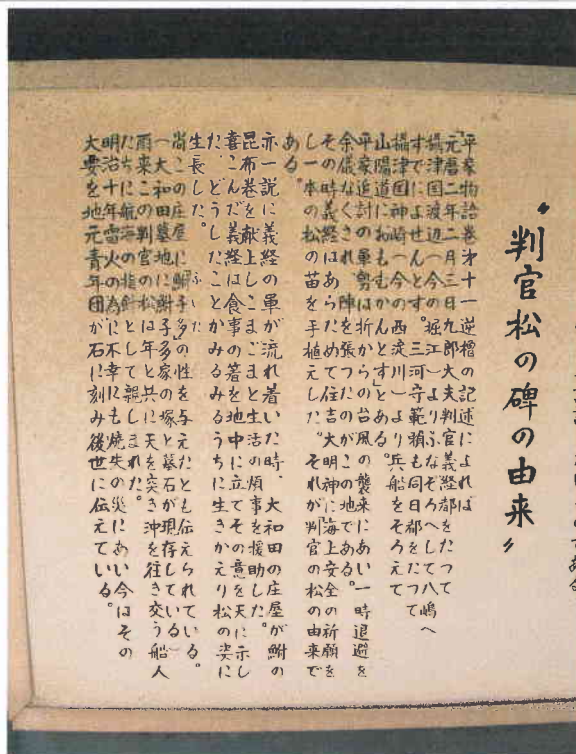
# 判官松伝承地

大阪市西淀川区大野2-4 (大野下水処理場北1号門前)

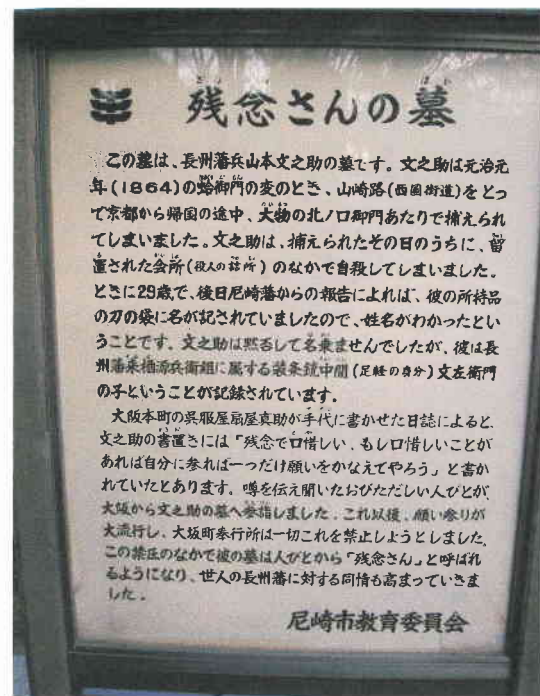
- ▶ 元暦2年(1185)2月16日、大物の浦(現在の尼崎市)から平氏追討の激戦地・屋島に向けて暴風の中を出帆した九郎判官こと源義経は、大波にさらわれ、この付近の大和田の浦に漂着しました。義経が渡航と戦勝を祈願するため、住吉大明神(大和田住吉神社)に立ち寄った際、小さい丘と老松があったところで休息をしたと伝えられています。その後、義経は無事に航海に成功し、屋島において平氏に戦勝します。現在、大野下水処理場の北正面の門前に伝承地として碑が立っていますが、以前はさらに南方(海側)に立っていたそうです。明治10年(1877)、老松は落雷により焼失しました。義経が必勝祈願したという大和田住吉神社の境内には、「判官松」を顕彰するため、昭和16年(1941)、「判官松之跡」の碑が大和田青年団によって建てられています。



大和田住吉神社にある「判官松の碑」



- ▶ 元治元年(1864)7月19日に勃発した「禁門の変」で長州藩は大敗しました。長州藩士である山本文之助は参戦していましたが、敗北のため京都を脱出し、西国街道を通過して西へ水路を使い敗走しました。尼崎藩は幕府の親藩にあたりながらも尊王派であったため、尼崎藩領にある大物北ノ口で上陸しました。しかし、山本は尼崎藩に捕えられ投獄されます。山本は期待を裏切られた思いで「残念、残念」を繰り返して、その日のうちに自害します。元治元年7月20日、山本文之助29歳でした。翌年の元治2年(1865)2月(※同年の4月8日から慶応元年に変更)頃から山本文之助の墓が「残念さん」と呼ばれるようになり、大坂の町人に信仰が深まってきました。参拝し願いをかけると叶えられるという噂が広まりました。それも同年の5月にはピークになり、大坂から尼崎の道には参列者の列が続いたそうです。長州征伐のため将軍自ら大坂城に入城する予定になっていたため、幕府は5月17日以降残念さん参りを禁じました。大坂町人平野屋武兵衛の書いた諸記録のうち「日加栄」の慶応元年5月16日に次のような記載があります。
- 「五月一六日、未明より尼ヶ崎町家之墓所ニ、昨年京都より長州江之落武者、尼ヶ崎入口にて横死の靈魂残り、いつとなく此墓所江立願すれば、病氣にかきらず、残念なることさへ立願すれば、願成就のよしにて、諸方より大くんじゅのよし、珍ら敷、倅駿七召連見物に参り候處、野里の渡しにて早くも日光御上りに、最早六拾人の余も渡り候よし、渡し守の咄しに、朝五ツ時よりハ所より番人出候よし、始め青竹にて誠にていねひきれいにかきいたし、土墓にいたし有之候へとも、あまり—— 多人数参詣にて、かきを取のけ、せいし候へとも、中々左様いたすほどさかんに相成り、塚もなく、少々おぼひ候上、土砂の高ふに相成候土砂を持帰り、(途中省略)
- 長州の横死の人の名前わかり不申候、年比ハ式拾三四才位のよし(途中省略)
- 人こぞりて、残念様 —— 唱へて立願のよし、(以下省略)



#### 無念柳参り

残念さん参りが禁じられても、大坂町人は次の手を考えました。いずれも幕府に対する反感からくるものです。5月25日に将軍徳川家茂が大坂城に入城します。その日の夜から禁門の変直後に取り壊された長州藩大坂蔵屋敷跡(大阪市西区土佐堀1-5)にある柳の木が信仰の対象となり、「無念柳」と呼ばれるようになりました。柳の葉を煎じて飲むとどんな病でも治ると広まりました。しかし、残念さんと同様に、すぐに幕府から禁止令が出されました。



### 3 尼崎城跡

尼崎市南城内10(尼崎市立明城小学校周辺)

- ▶ 尼崎城は譜代大名の戸田氏鉄によって元和4年(1618)から数年かけて築造された城郭です。三重の堀をもち、現在の庄下川も西側の外堀として利用されていました。沖からみると城全体が海に浮かんでいるように見え、美しく水に写る姿は「琴浦城」の名称で親しまれていました。現在では学校などの公共施設や住宅が立ち並び、その面影は全く残っていませんが、これまでの発掘調査により建物や堀の石垣などが発見されています。震災の被害を受けた城内小学校の建て替え工事に先立つ発掘調査では、本丸御殿の一部が検出されました。



#### 尼崎藩

天正8年(1580)以降、池田氏、三好氏、建部氏、戸田氏、青山氏、松平氏と尼崎城主はめまぐるしく変わりました。元和3年(1617)に戸田氏鉄(うじかね)が尼崎藩5万石の藩主となってから、城下町が整備されました。寛永12年(1635)藩主が青山幸成になり、延宝7年(1679)松平忠喬になり、幕末まで松平家が藩主を務めました。松平忠喬が就任後、武庫郡・菟原郡・八部郡内の計26か村が幕府に召上げられ、5万石から4万石に減封となりました。さらに明和6年(1769年)には、今津、西宮、御影、兵庫などの酒造業や港湾運送で栄えた商業地36か村が幕府に召上げられ、引き換えに播磨国内各地の71か村が与えられました。石高は5千石の増加となったものの、実収入は激減した上に、藩領が分断されたことから領国経営が機能しなくなり藩政は傾いていきました。

慶応4年(1868年)1月、朝廷に恭順を示して領地を安堵され、同年2月、新政府の指示で「桜井」に改姓しました。

明治4年(1871年)廃藩置県により尼崎県となり、翌年、兵庫県に編入されました。

最後の藩主・忠興は後に西南戦争の際、博愛社(後の赤十字社)を設立した一人となりました。

### 4 契沖生誕の地

尼崎市北城内27(尼崎市立中央図書館南側)

- ▶ 契沖は寛永17年(1640)に、この地に生まれました。尼崎藩主青山幸成に250石で仕えていた下川元全(もとたけ)の三男でした。11歳になり大坂今里にある妙法寺に入り真言宗の僧となります。契沖は徳川光圀(水戸黄門)からの信頼が厚く、40歳半ばに光圀からの依頼で「万葉集」の全注釈書「万葉代匠記」を完成させ評価を得ます。その後、歴史的仮名遣いを発見し体系化した「和字正濫抄」を著し、古学の祖と称えられました。



## 5 博愛社記念碑

尼崎市南城内116-11(櫻井神社境内)

- ▶ 尼崎藩最後の藩主 松平(櫻井)忠興は明治新政府に尽力します。西南戦争が勃発すると私財を投げ打って医師らを派遣し、敵味方関係なく負傷者の手当てを行いました。これが日本赤十字社の前進である「博愛社」の始まりです。明治20年(1887)5月20日、世界赤十字社から認められ、東京千代田区にある松平(櫻井)忠興の自邸で日本赤十字社が産声を上げました。その功績を称えるため櫻井氏ゆかりの櫻井神社の境内に尼崎城で使われていた石を用いて記念碑が建てられました。



松平(櫻井)忠興

## 6 佐々成政墓所／法園寺(ほうおんじ)

尼崎市寺町5

- ▶ 法園寺は開基が室町時代、勝譽恵光法園上人と伝えられています。佐々成政は天正5年(1536)に生まれ(天正8年説もあり)織田信長に仕え、数々の合戦で功績を残します。越中の所領をもらい富山城を居城とし、上杉軍(上杉謙信は既に病死)と前線で戦います。本能寺の変後、柴田勝家に従い羽柴秀吉と戦いますが、敗れて降伏します。その後、秀吉に仕え、九州征伐で功績を残し、肥後54万石の大名となりました。しかし、領国の一揆を平定できず、失政の責任を問われ、天正16年(1588)閏5月14日、尼崎にて切腹します。53歳でした。

